

横浜市立都岡中学校 令和元年度 学力向上アクションプラン

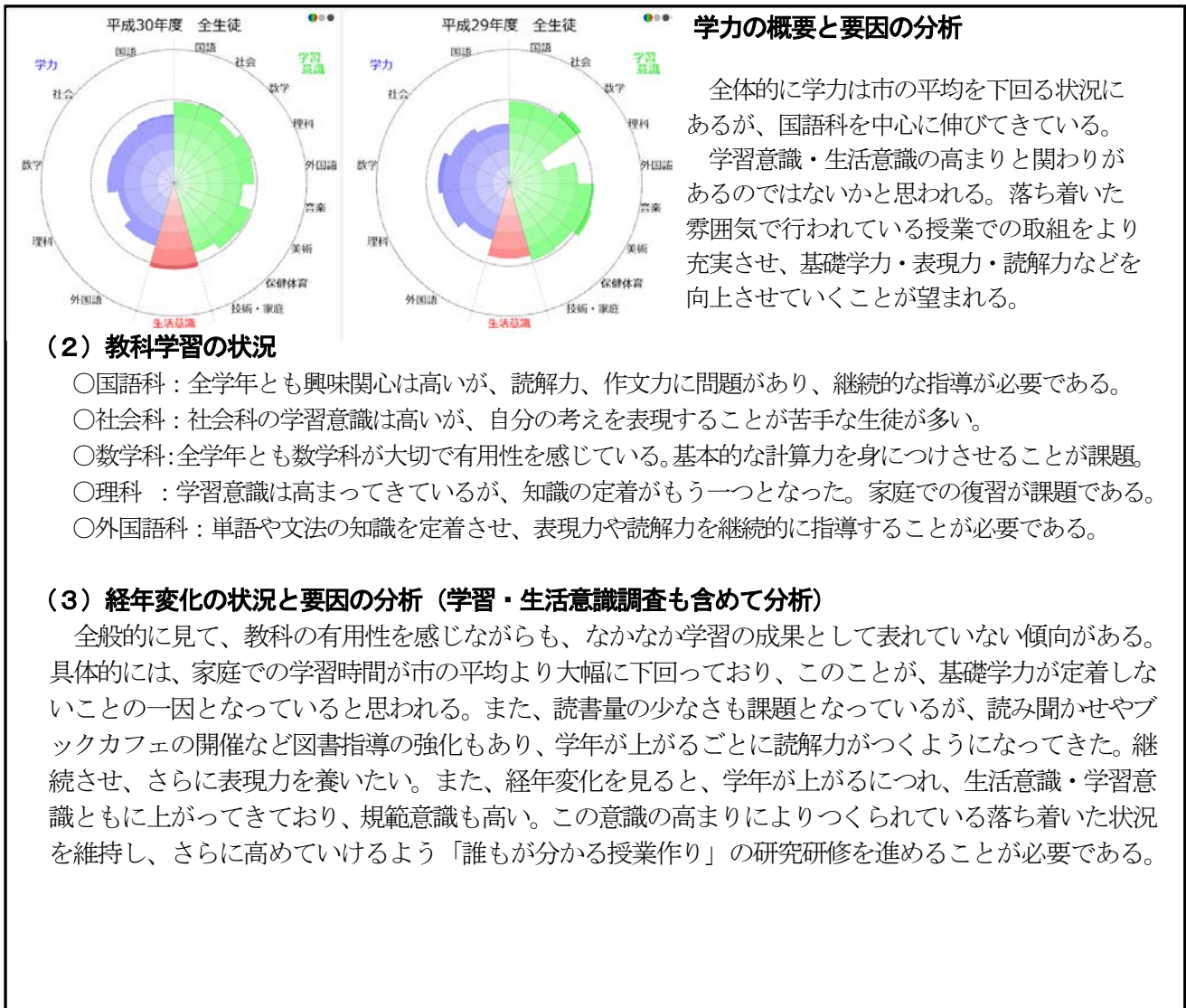
1 学校の状況と地域の実態

- (1) 生活の中に学習を効果的に取り込めない生徒が多く、生活の安定を図り、学習への意欲を持たせる必要がある。
- (2) 生徒の個への支援を充実させるために、援助ニーズを把握し、組織的な支援を行う必要がある。
- (3) 生徒の社会性を育むために、行事等集団での活動場面を生かし、自己有用感を高める必要がある。
- (4) 教員がわかる授業を展開するために、全教科で指導法の工夫に焦点化したテーマを設けるなど、指導改善に向けた組織的な取組が必要である。
- (5) 学校に協力的な地域であるため、地域の持つ援助資源を活用した支援体制を作ることが大切である。

2 中期学校経営方針「確かな学力」達成目標

- 「すべての生徒にわかりやすい授業づくり」をテーマとし、小中一貫教育を推進する中で小学校との合同授業研究等を行うなど、授業改善に取り組みます。
- 個に応じた支援を充実させるために、校内支援体制の強化を図ると共に、家庭や地域と連携・協働した支援に取り組み、基礎学力の定着をはかります。

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



4 令和元年度 目標と具体的方策

平成30年度 目標

すべての生徒にわかりやすい授業を行い、基礎学力の定着をはかる。その結果として、生徒質問紙で「勉強が好き」「授業が分かる」と回答する生徒増を図る。

(1) 学校組織としての共通の取組

○ 分かる授業・楽しい授業の確立

学力状況調査の分析や日々の教育活動を通して生徒の実態を把握し、「見通す・振り返る」学習活動をしっかり行う。また、言語活動や体験的な学習、基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を通して、生徒が「主体的に学習に取り組む態度」を育み、学ぶことの楽しさや成就感を体得させる。

○ 教科指導の充実

指導計画、評価計画をしっかりと立て、日々の授業を行う。「すべての生徒にわかりやすい授業」を行うために、特別支援教育の視点を取り入れた授業を行う。授業研究会を含む研修を年2回以上設定し、講師として指導主事や研究会校長等を招き最新の情報を学び、指導方法の充実を図る。

○ 学習習慣の向上

日々の教育活動で学習時間を確保し、自ら学習に取り組む姿勢を育む。ノートの使い方やレポートの書き方など学習方法を指導する。反復によって効率よく身に付く学習内容を宿題として与えるなど、家庭学習の充実を図る。

(2) 学年・教科等としての取組

○ 分かる授業・楽しい授業の確立

国語

- 言語事項定着のために反復学習の時間を多くとる。
- 自己表現力の向上のために、多種多様な作品に触れ、表現技法の知識を付ける。
- グループ学習の幅を広げ、意見交換を大切にし、自分の考えを発表できる機会を多く設ける。

社会

- 時事問題や歴史上のエピソードなどを提示し、関心・意欲を高める。
- ペア学習やグループワークを取り入れ、自分の考えを表現する力を高める。

数学

- 新しい単元に入る前に学習状況を把握するテストを実施し、手立ての工夫や補習等を計画する。
- 数学的活動を重視し、身近な生活と関連づけた学習を意識した授業の展開を心がける。

理科

- 思考力・判断力・表現力を育てるために、グループ活動を設け、お互いの考えを伝える活動を行う。
- 学んだ知識・技能を人生や社会に生かそうとする力を育てるために、身近な生活と関連付けた授業を行い科学に対する興味関心を高める。

音楽

- 鑑賞領域では他教科領域の学習と関連付け、生徒がより主体的に学習できるようにする。
- 実技領域では生徒同士のコミュニケーションを高められる活動を取り入れる

美術

- 生徒一人ひとりが意欲的に表現主題を考え、制作の見通しがもてる内容の焦点化と導入を工夫する。
- 視覚的な情報伝達をたくさん取り入れ、授業展開の構造化を図る。

技術・家庭

- 基本的な知識、技能が身につくよう、ITC活用し作業手順を効果的に提示するなど、導入を工夫する。
- 学習内容を生活に結びつけ実践、活用できるようにする。

外国語

- 思考力、読解力、表現力を育てるために、グループ活動や発表の機会を多く設ける。
- AET と会話する場面や修学旅行等外国人とのコミュニケーションを図る場面を計画的に設定する。

特別活動

- コミュニケーション能力を育みよりよい人間関係を築かせるために、行事活動の充実を図る。
- 話し合い活動では、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。

総合的な学習の時間

- 様々な体験活動と連携をとりながらキャリア教育を実践する。
- 様々な活動を通して自己の資質を伸ばし、よりよい生き方を考える力をつける。

個別支援学級

- 個別の指導計画に基づき、個々の課題に応じ、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図る。

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。